

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2020年
3月30日
第168号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

2019・保育を楽しむための連続講座 第5回

「東京の保育の未来～自治体保育労働者の責務」+「魔法力を高めるためには」

保育を楽しむための連続講座の最終回となる第5回は、5区1市・21名の参加でした。前半では、東京の保育園の始まりから、2040年の東京の姿を東京都が描く「未来の東京」戦略ビジョンに描かれた子育て・北をめぐる状況や、自治体に働く保育労働者としての責務を学びました。後半は、魔法力を高めるためにはどうしていくのか話を聞くことができました。

紡績会社の保育所から始まり、保育所が増設されてきた時期を経て、現在では保育の現場にも市場原理が持ち込まれ、規制緩和や民営化が進められているという東京の保育所の流れを知りました。また、東京都は『「未来の東京」戦略ビジョン』を発表し、その具体的な手立ては不透明で、実現可能性は限りなく低いが、『「待機児童」は死語に』と目標を立てています。また、自治体保育労働者として「保育労働者の権利や労働条件の確保」と「子ども・保護者の権利の改善や自治体における保育政策の拡充」の実現を統一する運動を進めるべきと話されました。その話を聞いて、自治体に働いているから世の中の流れに乗っていくのではなく、日本や世界の情勢、いろいろなことに目を向け自分なりに考えていくことが大切だと感じました。

後半の「魔法力を高めるためには」、「ウェルビーイングと参加」という観点から、子どもについて、保育者は主体的にいろいろ考えて、「ドキュメンテーションに基づくりフレクションを行い、見通しを立てて主体的に保育を楽しむ。」ことを繰り返していくことが大切だと教えて頂きました。また、「おとながどれだけ主体性を発揮できているか」という投げかけがあり、子どもの主体性について考えたことはあっても大人の主体性について考えたことがなかったと気付かされました。

グループ交流では、4. 5人でグループになり感想や職場でのことなどを話しました。

今回で10月から5回に渡り行われてきた今年度の保育を楽しむための連続講座は終わります。参加された方々の日々の保育に少しでもお役立ただけでしたら幸いです。ありがとうございました。

<参加された方の感想>



pixta.jp - 20012624

・始めは難しい話なのかな…と身構えていましたが、分かりやすく噛み砕きながら伝えて下さり、理解しながら共感したり、新しく知ることが出来ました。改めて子どもの関わり方を見直したいと思いました。(世田谷区 20代保育士)

・今回のグループ交流では、他区の状況を色々知ることが出来良かったです。休憩、年休、超勤、システムの導入等、目黒と違う状況に驚きと学びがありました。どの区も大変な状況は変わらないので、

運動をする中で改善されれば良いと感じました。魔法力の話は楽しく聞かせていただきました。保育を楽しむことが1番ですね。(目黒区 30代保育士)

・ウェルビーイングと参加の視点は、子どもをみるだけではなく、保育者がどうだったか振り返ることができるので分かりました。最後の仮説を立てて、自分が対応したことに子どもがどう変化するのか、よく見通していきたいと思いました。(文京区 20代保育士)